

1 旧西川家住宅 主屋・土蔵 国重文

近江八幡市新町 2丁目 19



旧西川利右衛門住宅。屋号は大文字屋。初代数政は八幡山城下建設時に安土城下から移住したと伝えられ、江戸時代前期には大坂、江戸（東京）に出店をもつ商人。建物は両方とも形式手法から18世紀中頃の建立。**主屋**は一部二階の切妻造棧瓦葺。県内では古い町家であるが、居室部から座敷部と突き出す発達した間取りを持つ。質素ながら骨太な意匠であって、大坂や江戸で活躍した近江商人の本宅を知るうえで貴重な建物。**土蔵**は内部三階建ての切妻造で、東面に庇が付く。主屋に箱入祈禱具 1具、土蔵に板札 1枚・鬼瓦 1個・家相図 1枚が附指定されている。住宅部分を公開。(Tel 0748-32-7048 市立資料館)

2 日牟禮八幡宮 鳥居 県指定

近江八幡市宮内町 257



3 本願寺八幡別院 本堂、表門、鐘楼、裏門 県指定

近江八幡市北元町 39-1

本願寺頭如が蒲生野に創建の金台寺が旧寺名。寺内町とともに安土城下を経て当地へ移転した。**本堂**は元禄7年（1694）から明和6年（1769）の建立で、入母屋造で材料に樺を使用した正面約 24.3m、奥行約 23.3mの広縁を大きくとる真宗大型本堂。**表門**は明和4年（1767）建立の入母屋造、本瓦葺。**鐘楼**は文政8年（1825）建立の入母屋造、本瓦葺。**裏門**は天明2年（1782）建立の入母屋造、本瓦葺。江戸時代中期の巨大な本願寺別院伽藍が一堂に残る。

4 西川家住宅 主屋・でみず間・化粧間・表土蔵 県指定

近江八幡市新町 2丁目 8

江戸時代中期に建築された、西川利右衛門家から分家した西川庄六家の住宅。**主屋**は木造一部二階建て、切妻造、平入りで、屋根は棧瓦葺。主屋を中心に右側に**でみず間**、左側に**化粧間**と**表土蔵**が建ち、それらの背面に蚊帳蔵・使用人などの附属建物を設ける。質素ながら骨太な意匠で、江戸時代から今日まで続く江戸（東京）で活躍した近江商人の本宅として貴重。主屋に鬼瓦 1個・箱入祈禱具 1具・鐘飾の棟飾瓦 1個が附指定されている。

5 正福寺本堂、表門 県指定

近江八幡市魚屋町元 2

安土城下町に創建された浄土宗寺院で、八幡山城築城時に現在の場所に移築される。**本堂**は鬼瓦銘から承応 3年（1654）建立と分かる。正面と一側面に縁を持つ六間取の方丈型仏堂で、桁行 15m、梁間約 14mを測る入母屋造、本瓦葺。**表門**は本堂建立直後の建立と思われる切妻造、本瓦葺の薬医門。県内浄土宗寺院最古の本堂として貴重である上、江戸時代の町中の浄土宗寺院の景観が残る。

6 旧ヴォーリス住宅 県指定

近江八幡市慈恩寺町元 11

昭和 7年（1932）に幼稚園の教員宿舎として設計されたが、ヴォーリス自身の邸宅に変更された。木造 2階建て洋室の主屋と平屋の和室からなる入母屋造の建物。木造の外観に赤い瓦屋根、白い煙突を持つ。現在ヴォーリス記念館として内部を公開。(電話予約要 Tel 0748-32-2456)

7 吉田家住宅本館・離れ 県指定

近江八幡市池田町 5-21-3

大正 2年（1913）に建築されたヴォーリス合名会社の吉田悦蔵の住宅。ヴォーリス指導のもと、吉田悦蔵とチャーピンが製図を担当。**本館**はコロニアルスタイルの木造 3階建て。**離れ**は木造平屋建てで、日牟禮八幡宮内の茶室を移築し、数寄屋風の意匠を持つ。レンガ塀・設計図面 4枚・家具 23点も附指定されている。



8 旧伴庄右衛門家 本家 市指定

近江八幡市新町 3丁目 15

江戸時代後期文政10年(1827)～天保 11年(1840) に建築された 7代目伴庄右衛門の住宅。**本家**は 2階建て一部 3階の切妻造、棧瓦葺で、軒高が高く木割も太い大建築。明治時代以降は小学校などにも使用され、それ用に増改築されたため、学校建築の遺構ととても、貴重である。現在は公益財団法人八幡教育会館が所有して内部を公開。(Tel 0748-32-1877)



9 長命寺 本堂、三重塔、鐘楼、護摩堂、三仏堂・護法権現社拝殿 国重文

近江八幡市長命寺町 157

西国三十三所霊場 31番札所の天台系寺院。中世は比叡山西塔に属する有力寺院。開基に武内宿禰、聖徳太子との寺伝があり、近江守護佐々木氏（六角氏）との関りも深い。現在の建物は、室町時代の兵火後再建されたもの。**本堂**は大永 4年(1524)建立で、桁行 7間(約 20.4m)、梁間 6間(約 20.5m)を測る入母屋造、檜皮葺の中世和様建築の密教系仏堂。**三重塔**は慶長 2年(1597)の建立の柿葺。全面丹塗りとする和様の三重塔。初重は板壁とし、初重に腰貫を用いる。全国的に桃山時代の三重塔は少ない。**鐘楼**は慶長 13年（1608）の建築で、入母屋造で屋根は檜皮葺。重層で袴腰付きの鐘樓。**護摩堂**は慶長 11年（1606）の建築で、方三間の宝形造、檜皮葺。**三仏堂**は永禄年間の建築で、寛政 5年（1793）に修理される。入母屋造、檜皮葺。丹塗り。**護法権現社拝殿**は室町時代後期の建立で、桁行 3間、梁間 2間の入母屋造、檜皮葺。角柱に舟肘木をのせ、軒は 2軒の疎垂木、妻飾りは木連格子、建物の四周に切目縁をつける。三仏堂と護法権現社拝殿、三仏堂と本堂をつなぐ渡廊下は室町時代の永禄年間の建物で、三仏堂側に唐破風及び龕股、兔毛通の意匠があり、屋根は檜皮葺となっている。本堂に厨子 1基、三重塔に棟札 3枚、鐘楼に上棟用木槌 1個・棟札 2枚、三仏堂に巡礼札及び棟札 3枚・主痘神阿 1基・板札 1枚が附指定されている。



10 八幡社 本殿 国重文

近江八幡市馬淵町 2447

建物は平安時代の源義家とも、馬淵氏の祖佐々木広綱の勧請とも伝える。本殿は室町時代の元亀 2年(1571)に兵火で焼失した後、桃山時代文禄 5年(1596)に再建される。三間社流造、向拝一間、檜皮葺でこの地域で珍しく前室を設けない。丹塗りで、外部からは桃山時代の特徴がよく出る彩色を施す龕股、木鼻等がよく確認できる。旧高欄擬宝珠 4個・旧鬼瓦 1組・旧棟胴瓦 2枚も附指定されている。



11 椿神社 神門 県指定

近江八幡市千僧供町 213

建物は平安時代長和 5年(1016)に日吉山王の一つ樹下神社（十禪師）を勧請したと伝える。**神門**の建築年代は板龕股や控柱の大きな形状から室町時代後期頃と考えられる。四脚門で、切妻造、棧瓦葺。扉は欠損しているが、そのほかは部材がよく残り、室町時代の様式をよく残した神門は貴重。



12 小田神社 楼門 国重文

近江八幡市小田町 54

旧郷社で、創建年代は明らかではないが、平安時代の木造大日如来坐像を伝える。**楼門**は三間一戸楼門、入母屋造で屋根は檜皮葺。2階建ての門は腰組で廻り縁を支え、屋根は一重で、その様式や手法から室町時代前期の建物と考えられている。



13 浄厳院 本堂・楼門、鐘楼、不動堂 市指定

近江八幡市安土町慈恩寺 744

浄厳院は近江守護六角氏の菩提寺であった慈恩寺の跡地に織田信長が天正 5年（1577）に浄土宗の近江伊賀の本山として開基。安土問答で有名。**本堂**は近江八幡市多賀町の興隆寺弥勒堂の移築で、室町時代後期の特徴を持つが、移築後閉鎖的な密教系を開放的な浄土宗系に改造し、また元禄年間には瓦葺で向拝が付く棟が高い現在の形式に改めた。桁行 7間(約 20.9m) 梁間 6間(約 18m)の大堂で、外陣の二重虹梁、龕股、切妻型化粧屋根裏の架構は本来の密教系本堂の形式を残す。**楼門**は室町時代後期の建築で、旧慈恩寺の遺構。総丹塗り、三間一戸、入母屋造で本瓦葺。龕股は龍の彫刻がある。**鐘楼**は寛保 2年(1742)の建築で、腰袴を付け、切石三段積基壇の上に建つ。**不動堂**は元禄 16年（1703）の建築で、二間四方の小堂で屋根は宝形造で棧瓦を葺く。そのほかは指定文化財ではないが、中近世が混在した浄土宗の地方伽藍が2つの子院と共によく残る。本堂に棟札 1枚が附指定されている。



本堂



楼門

14 摠見寺 三重塔、二王門 国重文

近江八幡市安土町下豊浦 6371 番地

織田信長が安土城内に創建した臨濟宗妙心寺派寺院で、本能寺の変後も続き、安政元年（1854）に 2堂を残して焼失。**三重塔**は長寿寺からの移築といわれ、享徳 3年（1454）の建築で、三間三重、本瓦葺。**二王門**は甲賀から移築とされる元亀 2年（1571）の三間一戸、入母屋造、本瓦葺の楼門で、二体の金剛力士像（国重文）を安置する。



15 桑實寺 本堂 国重文

近江八幡市安土町桑実寺 292

織山（観音寺山）西麓に位置する天台宗寺院。白鳳 6年（677）に天智天皇勅願で建てられたと伝える。享禄 4年（1531）には 12代将軍足利義晴がこの場所に仮幕府を置いた。**本堂**は、桁行五間、梁間六間、入母屋造で屋根は檜皮葺。正面の龕股や、内陣の須弥壇格天井など室町時代前期の特徴をよく残す。



16 旧宮地家住宅 国重文

近江八幡市安土町下豊浦 6-839

宝暦 4年（1754）長浜市国友町に建てられた農家住宅を昭和 45年「風土記の丘」事業で現位置に移築。入母屋造、茅葺で、「余呉型」と称される湖北地方の農家の典型。「にわ」と呼ばれる土間には、炊事のかまどや臼、風呂、農作業の道具等が展示される。



17 旧柳原学校校舎 県指定

近江八幡市安土町桑実寺 800

明治 9年（1876）に高島郡新儀村の初等科小学校として建築された滋賀県最古の学校建築。一階は板の間の教室と畳敷きの客間、二階は畳敷きの事務室、三階の塔には時報用の太鼓と鐘が吊される。洋風の外観と日本建築の要素も取り入れた「擬洋風建築」。棟札 1枚も附指定されている。



18 沙沙貴神社 本殿・中門・透塀・権殿・拝殿・楼門・東回廊・西回廊 県指定

近江八幡市安土町常楽寺 1

沙沙貴神社は、延喜式内社で、古代の佐々貴山君の歴史を継承して、中世以降は、宇多源氏・佐佐木源氏の氏神として親しまれている神社。江戸末期に丸亀・京極家によって、**本殿・透塀・中門・権殿・拝殿**を再建され、建物に合わせて、江戸中期の茅葺（材料ヨシ）の**楼門・東西廻廊**の建造物八棟が県指定有形文化財に指定されている。中でも本殿は五間社流造、向拝三間は、県内屈指の大型建造物として中世以降の伝統様式として継承されている。本殿に棟札 2枚・境内図 1枚、権殿に棟札 2枚、拝殿に棟札 2枚が附指定されている。



19 旧安土巡査駐在所 県指定

近江八幡市安土町下豊浦 6678

明治 18年（1885）に旧常楽寺村に建てられた初期の交番。木造 2階建てで、1階には板敷きの洋室と畳敷きの和室ほか。2階には和室が 2部屋ある。建物隅の石積や1階正面のアーチ型庇、2階の三角屋根等、海外建築の要素を巧みに取り入れた「擬洋風建築」。



20 旧伊庭家住宅 市指定

近江八幡市安土町小中 191

大正 2年（1913）に建てられたヴォーリス設計の木造住宅。ハーフティンバーの外壁に傾斜の強いスレート葺きの切妻屋根を乗せ、煙突を構える洋風建築の主体部と、入母屋造りで、妻入棧瓦葺の和風建築の交関部とで構成されるヴォーリス初期の作品。建物内部を公開。(Tel 0748-46-6324)



21 活津彦根神社 本殿 市指定

近江八幡市安土町下豊浦 4272

社伝では聖武天皇が奈良薬師寺に施した豊浦荘の産土神とされる神社で、**本殿**は棟札と扉の墨書から、寛永 3年(1626) 建立の前室付三間社流造で、平成 5年に檜皮葺から銅板葺に改められた。向拝などに一部修理の痕跡があるとの指摘もある。棟札 1枚も附指定されている。



22 新宮神社 大宮社、拝殿 市指定

近江八幡市安土町下豊浦 3319

平安時代後期の動請と伝えられ、豊浦荘の薬師寺施入文を記載した薬師十二神将像（南北朝時代 県指定)、釈迦十六善神像（室町時代中期 市指定)、旧蔵の鎌倉、室町時代の二つの大般若経（後者 正祥寺蔵 県指定）が現存。**大宮社**は棟札から正徳 2年（1712）の建立で、前室付三間社流造、銅板葺。向拝の手挟などや建物内部に室町時代の部材を各所に残す。**拝殿**は江戸時代後期と思われる建物で、入母屋造で茅葺（材料葺）。この地域に多い土間形式。大宮社に棟札 1枚が附指定されている。



23 奥石神社 本殿 国重文、境内社諏訪社本殿 市指定

近江八幡市安土町東老蘇 1615

奥石神社は社叢に、平安時代の歌集にも掲載される老蘇森（国史跡）を持つ延喜式内社。**本殿**は棟札写から天正 9年（1581）建立の前室付三間社流造、檜皮葺の建物で、龕股や手挟など装飾や部材等建物の特徴から室町時代中期を指摘する考えもある。本殿の西側にある境内社**諏訪社本殿**は、一間社流造、檜皮葺で向拝の木鼻や虹梁椽様の特徴から桃山時代のものと思われる。



24 教林坊 庫裏・表門 市指定

近江八幡市安土町石寺 1145

聖徳太子の伝承の残る天台宗寺院。**庫裏**は江戸時代前期の建立で、中期以降に大きな修理を行っている。入母屋造、茅葺（材料葺）、棧瓦葺の庇がつく。庭園に面して付書院を持つ座敷を配置し、奥に仏間を取る。**表門**は江戸時代後期の素朴な薬医門で表門と庫裏を結ぶ板塀で入口と庭園（市名勝）を分ける。表門に板塀が附指定されている。

